

令和元年度
第1回 対策地域内廃棄物処理業務等（減容化处理）に係るアドバイザー委員会
議事要旨

日時：令和元年7月2日（火） 10:00～12:10

場所：一般財団法人 日本環境衛生センター 東京事務所

出席委員（敬称略）

公益社団法人 全国都市清掃会議 技術指導部長	荒井 喜久雄
岡山大学大学院 環境生命科学研究科 教授	川本 克也
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 基盤技術・物質管理研究室 室長	倉持 秀敏
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 客員研究員	高田 光康
東北大学大学院 環境科学研究科 教授	吉岡 敏明

オブザーバー（敬称略）

福島県生活環境部中間貯蔵施設等対策室 主幹	清野 弘
-----------------------	------

議事要旨

I 本日の議事

1. 檜葉町対策地域内廃棄物処理業務（減容化处理）について
2. 双葉町減容化施設（中間貯蔵施設）における廃棄物処理その1業務について
3. 双葉町減容化施設（中間貯蔵施設）における廃棄物処理その2業務について

II 検討内容

1. 檜葉町対策地域内廃棄物処理業務（減容化处理）について

JFE・飛島特定業務共同企業体（以降、JFE・飛島JVと記載）より、業務内容について説明があった。

- (1) 飛灰処理に使用したキレート剤の添加量について

委員より、飛灰処理に使用したキレート剤の添加量はどのように制御していたのか、との質問があった。JFE・飛島JVより、毎日の作業中に飛灰の状態を確認しながら、必要に応じて添加するキレート剤と水の量を制御していた、との回答があった。

- (2) 作業員の被ばく線量管理について

委員より、作業員の被ばく線量限度を大きく下回る実績だが廃棄物の放射性物質濃度が低かったためか、との質問があった。JFE・飛島JVより、御指摘のとおりであり、さらに、

低い放射性物質濃度であっても長時間作業により被ばく線量が増加することを考慮し、作業時間を管理しながら業務を行った、との回答があった。

(3) 焼却炉の運転管理について

委員より、機器トラブルで焼却炉の運転が止まったことはあるか、との質問があった。JFE・飛鳥JVより、小さなトラブルはあったが、焼却炉が停止することはなく順調に作業を行った、との回答があった。

2. 双葉町減容化施設（中間貯蔵施設）における廃棄物処理その1業務について

新日鉄・クボタ・大林・TPT 特定共同企業体（以降、新日鉄・クボタ・大林・TPT JV と記載）より、業務内容について説明があった。

(1) 中和物回収装置の設置理由について

委員より、中和物回収装置を設置した理由はなにか、との質問があった。新日鉄・クボタ・大林・TPT JV より、中和物回収装置で回収した塩化カルシウムを再利用することで新規に投入する薬剤の使用量を減らし、灰処理ばいじん量を低減するためである、との回答があった。

(2) 灰処理ばいじん容器への封入作業自動化について

委員より、灰処理ばいじん容器への封入作業を自動化したことによって想定されるトラブルはなにか、との質問があった。新日鉄・クボタ・大林・TPT JV より、封入前の加湿時にトラブルが起こりやすいが、本施設では封入後に加湿するよう対策している、との回答があった。

3. 双葉町減容化施設（中間貯蔵施設）における廃棄物処理その2業務について

JFE・前田特定業務共同企業体（以降、JFE・前田JV と記載）より、業務内容について説明があった。

(1) 2段の集じん装置の設置理由について

委員より、2段の集じん装置を設置した理由はなにか、との質問があった。JFE・前田JV より、1段目の集じん装置で処理は完了するが、1段目のバックアップとして設置している、との回答があった。

(2) 本施設への過去実績の反映について

委員より、過去に行った他の仮設処理施設の施設設計及び運営の実績は反映されているのか、との質問があった。JFE・前田JV より、過去の実績及び経験を踏まえた計画・設計を行っている、との回答があった。

以上